

機械工学委員会

機械工学の将来展望分科会（第24期・第4回）議事録

日時 令和2年2月24日（月）13:00～15:00

会場 東京大学本郷キャンパス工学部2号館232会議室

出席委員： 大島まり、菱田公一、岩城智香子、大竹尚登、岸本喜久雄、北村隆行、佐々木直哉、塩見淳一郎、松尾亜紀子、森下信、矢部彰

欠席委員： 岡崎健、松本健郎

議事

1) 機械工学委員会提言原稿（案）について

- ・大島委員長、塩見幹事から、機械工学委員会提言原稿（案）について説明があった。

2) 今後の進め方について

- ・今回は提言ではなく、記録として残すに留めることとなった。来期に提言としてまとめることを目指して、本分科会での議論を記録としてまとめておく。
- ・社会的課題を解決するというのは理解してもらえと思うが、人文社会的な課題も考える必要がある。機械工学とは親和性が高い人文社会的な課題もある。ELSIセンターなどがあり、エシックスが議論されている。
- ・ELSIセンターなどにハードが絡む問題があるか、また、そこに機械が絡めるかを考える必要がある。現在は情報技術と絡めて議論されている。
- ・デジタル法学部などの議論もある。
- ・時系列（時間発展）を考慮したエネルギー解決策などもエシックスや法令が絡む工学的な課題である。
- ・前回の機械工学員会からの提言の後の10年で変わった社会のニーズなどを背景として書き出すのが良い。例えばサーキュラーエコノミー、内燃機関の廃止などがある。これらはまさにインクルーシブな課題である。
- ・何を誰に対して提言するのかをはっきりさせる必要がある。機械工学は今のままでよいのか？それに対して我々はどうするのか？という問いに答えることを期待されている。機械工学全体としてインパクトがある話にしなないといけない。
- ・根本的に変えなければいけないことを書くのがよい。提言は宣伝ではない。新しい機械

工学を作るというような言い方にはできないか。

- ・マスタープランがインクルーシブ社会のストーリーに繋がっていない。最後に製品をまとめるのは機械工学。
- ・産業構造や社会の構造が大きく変わっているので、それに機械工学が貢献できる形をまとめられないか。例えば、エネルギー問題に対する切り口などは、現在の延長線上ではできないものがあり、それに対する課題をまとめるなど。
- ・アクションまでいかななくても課題をまとめるだけでも有意義である。
- ・記録にするのであれば、今期やったこととして書けばよい。後で見たときに自分たちで分かり易いように。
- ・記録のタイトルは「機械工学が切り拓く Inclusive Society に向けて」とする。

4. 配布資料

資料1 「機械工学の切り拓く Inclusive Society」(案)